



このとい通信

あなたはどうか考えますか？
妊婦血液で胎児のダウン症診断：国内5施設で

妊婦の血液で、胎児がダウン症かどうかをほぼ確実にわかる新型の出生前診断を、国立成育医療研究センター（東京）など5施設が、9月にも導入することがわかった。妊婦の腹部に針を刺して羊水を採取する従来の検査に比べ格段に安全で簡単にできる一方、異常が見つければ人工妊娠中絶にもつながることから、新たな論議を呼びそうだ。

導入を予定しているのは、同センターと昭和大（東京）、慈恵医大（同）、東大、横浜市大。染色体異常の確率が高まる35歳以上の妊婦などが対象で、日本人でのデータ収集などを目的とした臨床研究として行う。保険はきかず、費用は約20万円前後の見通しだ。検査は、米国の検査会社「シ

ーケノム」社が確立したもので、米国では昨年秋から実際に妊婦の血液に含まれ



る胎児のDNAを調べる。23対（46本）ある染色体のうち、21番染色体が通常より1本多いダウン症が99%以上の精度でわかるほか、重い障害を伴う別の2種類の染色体の数の異常も同様にわかる。羊水検査に比べ5週以上早い、妊娠初期（10週前後）に行うことができる（読売新聞記事より）。



これに関連して、体外受精で妊娠し、血液検査により赤ちゃんにダウン症の可能性があることを公表した東尾理子さんの記事を紹介しておきます。

「産むことに迷わない」胎児に障害の可能性 東尾理子さんに聞く

もし、おなかの赤ちゃんに障害の可能性があったら…。誰もが思い悩む重いテーマだ。俳優・石田純一さん（58）の妻で、妊娠中のプロゴルファー東尾理子さん（36）が「胎児にダウン症の可能性があ

る」と診断されたことを6月にブログで公表した。出産を11月に控え「産むことに迷いはない」と言い切る東尾さんに、不妊治療や出生前診断への思いを聞いた。

▽痛みで動けず
「不妊治療による待望の妊娠だったそうですね。」

「2009年12月に結婚し、子どもが欲しかったので医師に勧められたタイミング法（予測した排卵日に性交渉する方法）を試しました。それでも授からず、昨年の初めごろから（採取した精子を子宮内に入れる）人工授精を6回、さらに（精子、卵子ともに取り出して、受精させてから子宮内に戻す）体外受精に切り替え、3回目で妊娠しました」

「治療中のつらさは。人工授精は平気でしたが、体外受精は排卵誘発剤や抑制剤を毎日自分でおなかやお尻に注射します。おなかにはばんばんに張って苦しく、痛みで全然動けませんでした」

「精神的には。」

「大丈夫でした。できるものではないもの、できないものはできない。」





おなかをさすりながらインタビューに答える
東尾理子さん

自分でコントロールできることではなく、怒っても悲しんでも仕方がない。できることを精いっぱいやるだけでした」

「3月、妊娠検査薬で陽性と出た結果を直後にブログで公表しました。流産の恐れがまだ残る時期でしたが。」

「実は、流産は15〜20%と高い確率で起きるといふ事実や、初期の流産は母体の責任ではなく受精卵の運命なのだということ、不妊治療を始めてから学びました。知らないのは普段耳にしないから。たとえ流産したとしても『ごく普通にあることだよ』と発信することに意味があると思います、どんな結果も受け止める覚悟で公表しました」

▽どんな子でも幸せ

「母体から採血し、胎児の染色体異常の可能性を調べる母体血清マーカー検査（クアトロテスト）を受けましたね。なぜ検査を。」

「障害の有無を確かめたかったわけではなく、いろいろある血液検査の一つとの認識でした。検査の結果、82分の1の確率で胎児にダウン症の可能性があると診断され

ました」

「結果を聞いてどうでしたか。」

「年齢の割には高い確率との説明でしたが『この子をおろす選択肢はない。絶対産む』と強く感じました。」

検査した時期はつわりで苦しいだけ。でも結果が出たころには胎動も始まり、母になる自覚ができました。どんな赤ちゃんでも幸せ。一緒に暮らしていこうと。（障害の有無が分かる確度が高い）羊水検査は考えませんでした」

「6月にブログで結果を公表しました。批判もあったようですが。」

「障害は特別なことではないし、物議を醸すとは思ってもいませんでした。いろんな考えがあると勉強になりました」

▽間違った安心感

「若い人たちに伝えたいことは。」

「技術の進歩で『いつでも産める』という間違った安心感が広がっていますが、高齢になれば妊娠率は下がり、流産率や障害の率は上がります。振り返ると避妊の方法は習っても、こうした事実は誰も教えてくれませんでした。仮に私が20代でこの事実を知っていたとしてもゴルフを優先していいたでしょう。でも、何を犠牲にして今の人を歩んでいるか、随分と意味が違ったはずです。時間を無駄にしないためにも、体の仕組みをしっかり理解した上で、人生設



計を立ててほしいです」（共同通信 土井裕美子）

妙泉堂薬局からのアドバイス

出生前診断の是非については、倫理上、宗教上、その他いろいろの問題があつて、今回述べるのは控えさせていただきますが、何らかの染色体異常の発生率が30歳台前半で1/300、35歳で1/134、40歳で1/40と上がってくることで、流産率も同様に上がってくる現実があります。

このような場合、当店では染色体異常の発生率を下げる漢方薬として「紫河車（プラセンタ）」の併用をお奨めしています。

不妊症治療として期待されるプラセンタ（紫河車）の働きは？

①抗老化作用により、子宮や卵巣の働き（腎精）を補うことで、その機能を若返らせる。（中国の古書、本草拾遺に記載されています。）

②妊娠中に服用することで、胎児の発育を促し、奇形児の生まれるのを防ぐ。先天性の病気を持った子どもの生まれるのを防ぐ。習慣性の流産を予防する（染色体異常の発生率を低下させる）



国立遺伝子研究所の研究として発表されています（その他様々な妊娠・出産に関わる有効な働きが証明されています）